

Value Innovation & Integration For the World

食のバリューチェーンを世界に



株式会社アスラポート・ダイニング

証券コード:3069



「食のバリューチェーン」構築をさらに強化・推進へ

事業環境及び当期の業績

中国経済の減速や中東情勢の混乱に端を発する欧州の政情不安などの影響を受け、国内景気は依然として先行き不透明な状態です。外食及び食品生産業界においても、円高により一部輸入食材価格は低下したものの、人件費の上昇が依然として利益を圧迫するなど、楽観視できない状況が続いています。

こうした環境の中、当社では主力ブランド「牛角」が、店舗売上、出店数ともに堅調に推移し、全店売上高は外食業平均を上回る伸びを確保することができました。また、2013年9月に子会社化した弘乳舎の業績が堅調に推移したこと、2014年9月に子会社化した「ざどり亭」「浪花屋鳥造」などのブランドを有するレゾナンスダイニングが通期で貢献したこと、さらに2015年5月の英国3法人、そして10月の九州乳業の子会社化が収益に大きく寄与したことなどから、4期連続の増収増益、過去最高益を達成することができました。

当期(2015年4月～2016年3月)業績につきましては、連結売上高23,495百万円(前年同期比110.4%増)、連結営業利益817百万円(同16.7%増)、連結経常利益は724百万円(同16.3%増)、親会社株主に帰属する純利益は520百万円(同33.9%増)となりました。

経営戦略の進捗

当社は2013年12月に中期経営計画を発表し、国内外食(販売)事業を主に運営する企業から、海外も含めて、生産及び流通事業も行う「食のバリューチェーン」を構成する事業モデルへの転換を図ってまいりましたが、当期は、M&Aにより流通事業への展開と生産事業の拡充を実現し、目標とする事業モデルへ大きく近づくことができました。

流通事業では、グループ内の英国法人でスシ・バーレストランのSushi Bar Atari-Ya Limitedや英国の高級和食レストランなどに食材を卸している英国法人、T&S Enterprises (London) Limited 及び S.K.Y. Enterprise UK Limited を子会社化したほか、水産物を加工し、米国内の大手流通企業に販売している米国法人、Pacific Paradise Foods, Inc を子会社化し、海外市場への進出を果たしました。また、国内では大株主である阪神酒販や業務提携先であるジャパン・フード&リカー・アライアンスとの協働関係も進んでおり、国内外において流通機能の効果を最大限に発揮できる環境が整いつつあります。

生産事業では、食品生産事業と六次産業化の推進戦略の中で、新たに茨城乳業、九州乳業及びTOMONIゆめ牧舎が加わり、大きく事業の拡充が進みました。

茨城乳業は、今後当社グループの生産事業部門の東日本エリアの拠点として乳製品の生産を加速させていく予定です。TOMONIゆめ牧舎は、北海道で仔牛の肥育や牧草の生産を行っていますが、近年仔牛や生乳の需要が大幅に増大しつつある中、今後、牛舎等の設備に投資を行い、事業を拡大させていく予定です。九州乳業は九州を中心に乳製品の製造、販売を手掛ける九州大手乳業メーカーで、一般的な飲料乳はもとより、ヨーグルトや豆乳の商品開発、製造に強みを持っています。ここ数年、同社のヨーグルトや豆乳の販売実績は、前年比130%超の比率で伸長しており、当社の生産部門の収益の柱となっています。

販売事業においても、既存ブランドの「牛角」FC店8店舗、メキシカン・ファストフードの「Taco Bell」直営店2店舗のほか、海外事業ではSushi Bar Atari-Ya Limited直営6店舗、さらにDSKグループの「どさん子」ラーメン店など242店が新たに加わったことにより、現在の店舗数は680店舗まで増加しています。また、2015年12月には海

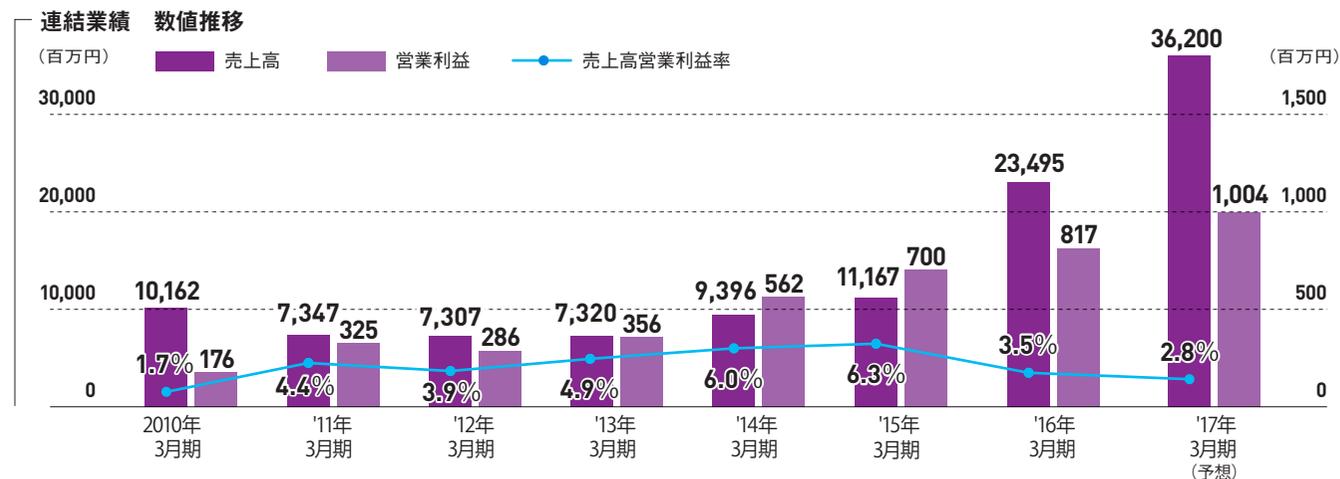
外で有数のベーカリーブランドである「ル・パン・コティディアン」の国内独占ライセンスを取得し、既存ブランドの競争力強化と成長並びにブランド・ポートフォリオの多様化も着実に進んでいます。

これらの様々な施策によって、日本を中心としたグローバル規模での「食のバリューチェーン」構築は、いよいよスピードを増して現実のものとなってきました。今後はさらに、各部門において事業ポートフォリオの拡充を推し進めるとともに、各事業部門それぞれが有機的かつ連鎖的に機能して、最大限の相乗効果を発揮できるように努め、多面的、多層的な収益構造の確立を目指します。数値目標としては、2020年度において、売上高630億円以上、営業利益20億円以上、海外事業で全売上高の20%以上となる130億円以上の売上の達成を設定しました。

株主・投資家の皆様におかれましては、引き続き当社グループの今後の成長にご期待いただき、変わらぬご支援をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

2016年8月

代表取締役社長 **中村敏夫**
代表取締役会長 **檜垣周作**



※当誌に掲載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、掲載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証したりするものではありません。

PAGE 02 ブランド/グループ企業一覧

販売

社名	株式会社プライム・リンク				株式会社とり鉄		株式会社アスラポート・ダイニング	
会社概要	資本金 300百万円 1995年設立、2001年ナスダック・ジャパン市場(現JASDAQ市場)上場、2007年株式移転し株式会社アスラポート・ダイニングの連結子会社となる。主にフランチャイズで焼肉、居酒屋等を運営。				資本金 100百万円 2007年に株式会社アスラポート・ダイニングの連結子会社に。首都圏を中心に鶏料理居酒屋「とり鉄」などを運営。		資本金 2,848百万円※1 2015年に米国TacoBell社とフランチャイズ契約を締結。2015年にベルギーPQ LICENSING社から「ル・パン・コティディアン」の国内独占ストアライセンスを取得。	
ブランド	 牛角	 とりてん	 おだいどこ	 キムカツ、他	 とり鉄	 かぐらや、他	 TACO BELL LIVE MÁS タコベル	 ル・パン・コティディアン
業態	焼肉	居酒屋	居酒屋	とんかつ、他	居酒屋	居酒屋	メキシカン・ファストフード	ベーカリーレストラン
店舗数計	185 直営 5 フランチャイズ 180	66 5 61	12 3 9	4 4 0	56 9 47	6 2 4	2 2 0	—

販売

社名	レゾナンスダイニング株式会社			株式会社フードスタンドインターナショナル		株式会社どさん子※2	Sushi Bar Atari-Ya Limited
会社概要	資本金 20百万円 2014年に株式会社アスラポート・ダイニングの連結子会社に。関西を中心に「薩摩郷土料理ちどり亭」「浪花屋 鳥造」などの焼鳥居酒屋を運営。			資本金 50万円 2011年設立。同年にたこ焼事業、2013年に洋菓子の製造販売事業を受け、たこ焼業態は主にFC、洋菓子事業は直営で運営。		資本金 80百万円 2016年に50年以上の歴史をもつ老舗ラーメンチェーン「どさん子」などを運営する株式会社どさん子の持株会社DSKグループを連結子会社化。	資本金 1,000英ポンド 2015年に株式会社アスラポート・ダイニングの連結子会社に。寿司店を展開する英国法人。
ブランド	 ちどり亭	 浪花屋 鳥造	 鉄板キッチン 時、他	 たこばやし たこばやし/うまいもんや	 G. GOKOKU	 どさん子	 Sushi Bar Atari-Ya Sushi Bar Atari-Ya
業態	居酒屋	居酒屋	ステーキ、他	たこ焼	洋菓子製造・販売	ラーメン	寿司屋
店舗数計	60 直営 3 フランチャイズ 57	26 2 24	2 2 0	5 1 4	5 5 0	243 20 223	6 5 1

生産

社名	株式会社弘乳舎	茨城乳業株式会社	株式会社TOMONIゆめ牧舎	九州乳業株式会社	Pacific Paradise Foods, Inc.	T&S Enterprises (London) Limited	S.K.Y. Enterprise UK Limited	トータル
会社概要	資本金 100百万円 2013年に連結子会社化。熊本県の乳製品の製造、加工メーカー。	資本金 30百万円 2015年に株式会社アスラポート・ダイニングの連結子会社に。茨城県石岡市で牛乳、乳製品の製造・販売を展開。	資本金 100百万円 2015年に株式会社アスラポート・ダイニングの連結子会社に。北海道黒松内町で生乳の生産・加工を行うファーム。	資本金 10百万円 2015年に株式会社アスラポート・ダイニングの連結子会社に。北海道黒松内町の製造、販売を九州エリアに乳製品を展開。	資本金 200,000米ドル 2015年に株式会社アスラポート・ダイニングの連結子会社に。食品加工卸の米国法人。	資本金 1,000英ポンド 2015年に株式会社アスラポート・ダイニングの連結子会社に。水産加工卸の英国法人。	資本金 100英ポンド 2015年に株式会社アスラポート・ダイニングの連結子会社に。日本食材中心に総合食品卸を展開する英国法人。	
ブランド	 弘乳舎	 いばらき乳業 茨城乳業	 TOMONI夢牧舎	 みどり牛乳 九州乳業株式会社	 Pacific Paradise Foods, Inc. PPF	 T&S	 S.K.Y. S.K.Y.	
業態	乳製品製造・加工	乳製品製造・販売	生乳出荷・仔牛生産	乳製品製造・販売	加工・卸	加工・卸	流通・卸	
店舗数計	2 (工場直営カフェ) 直営 2 フランチャイズ —	—	—	—	—	—	—	680 70 610

1. 店舗数計は2016年6月末現在となります。2. ※1 2016年6月末現在 ※2 親会社の株式会社DSKグループの資本金となります。

新たなビジネスモデルで「食のバリューチェーン」を促進

当社が目指す「食のバリューチェーン」とは、一次産品のもつバリュー（付加価値）が、製造メーカーの加工技術や商品開発を経て、流通事業者のリテール網へのアクセスを通じ、幅広いリテール（外食・小売）網に提供されて最終消費者の評価が付加されることにより、連鎖的に価値を高めていくことです。生産・流通・販売の循環的チェーンを通じてバリューを高めていくビジネスモデルの構築を目指しています。

1 生産・加工し

生産事業

2013年度より事業ポートフォリオに加わった生産事業において、付加価値の高い商品開発を行います。昨年より乳牛の肥育事業にも事業を拡げ、良質な生乳生産、乳製品加工で食品展開の幅を広げ、今期は生産事業の売上がセグメントにおいて最大部門となります。



2 流通網で拡大し

流通事業

当期より「食のバリューチェーン」の要である流通事業がポートフォリオに加わりました。国内では大株主である阪神酒販や業務提携先であるジャパン・フード&リカー・アライアンスとの協働も進み、国内外で流通機能の効果を最大限に発揮できる環境が整いました。



品質が高くブランド力がある日本の食材を

販売事業

タコベルやどさん子ラーメンなど新たなブランドも加わり、店舗数は680店舗まで増大しています。2020年までに国内外1,000店舗を達成し、より多くのブランドと販売ネットワークを構築してまいります。



3 国内外に提供する

消費者の方々からの評価を通じて、さらなる付加価値の創造をグループ全体で図る

2020年度

売上高 630億円以上
営業利益 20億円以上

店舗数：国内外合計で1,000店舗へ
海外事業売上：130億円へ（全売上高の20%以上）

成長を支える4つの戦略が拡大

1 既存ブランドの競争力強化と成長

堅調な「牛角」をさらに競争力強化

- ・既存店舗の売上は堅調な伸びで、既存店売上前年同期比104.3%
- ・フランチャイズ8店舗を出店し、全店売上前年同期比111.0%
- ・高付加価値メニュー導入による客層多様化と客単価引き上げで既存店客単価前年同期比104.6%

居酒屋業態の収益力改善で成長性強化

- ・メニュー数絞り込みによる運営強化と食材管理の効率化を継続
- ・季節メニューの積極的投入によりリピーター獲得
- ・「レゾナンスダイニング」子会社化による焼き鳥業態の強化

新たな試みを展開

- ・鉄板焼き「鉄板キッチン吟」や牛肉専門の新ブランド「九州牛舎清田屋」をオープン
- ・オーストラリアのメルボルンにオープンした店舗で「とり鉄」×「どさん子」のコラボレーション、宮城県名取市で「牛角」×「どさん子」のコラボレーションを展開

2 ブランド・ポートフォリオの多様化

ファストフードへの進出

- ・「タコベル」ブランドの出店を拡大。渋谷1号店、汐留2号店に続き青山骨董通り店とアクアシティお台場店(2016年7月オープン)出店でブランドの拡大と定着へ
- ・ベルギー発祥の人気ベーカリーカフェレストラン「ル・パン・コティディアン」の国内独占ストアライセンスを取得し、日本で展開開始

ラーメン業態への進出

- ・認知度の高い老舗ラーメン・ブランド「どさん子」を持つ「DSKグループ」を子会社化
- ・若年層をターゲットに「どさん子」ブランドプロジェクトを開始。「一風堂」を運営する「株式会社源カンパニー」の協力を得て、メニューレシピから店舗デザイン、ロゴ、接客スタイル等を徹底的に見直した新「どさん子」ブランドを開発
- ・海外では「どさん子パリ店」「どさん子West.L.A店」を展開

3 海外市場への進出

英国3法人の子会社化

- ・水産物加工卸の「T&S」、日本食材中心の総合食品卸の「S.K.Y.」そしてロンドンを中心に6店舗の本格的な寿司店を運営する「Sushi Bar Atari-Ya」を連結子会社化することで、欧州における高品質な日本食材のバリューチェーンを獲得。今後の欧州の日本食ビジネス(外食・卸・輸出入)展開の基盤に

米国1法人の子会社化

- ・米国カリフォルニア州で和食材や天ぷら用エビに強みをもつ水産物加工卸の「PPF」社を連結子会社化し、北米地域における「食のバリューチェーン」構築へ

ポーランドで和食工場運営会社設立

- ・当社他2社と合併で設立した「Japan Traditionals Sp.zo.o.」が設立完了。今夏より餃子などの和食材を生産し、「T&S」や「S.K.Y.」を通じて欧州市場に提供予定

4 食品生産事業と六次産業化の推進

TOMONI ゆめ牧舎子会社化

- ・仔牛の肥育と生乳や乳製品を製造・販売する「TOMONI ゆめ牧舎」を子会社化し、当社グループの「弘乳舎」の取引先である九州地域の牧場へ仔牛を販売。「弘乳舎」への将来的な生乳の安定供給を目指す

九州乳業を子会社化

- ・主力ブランド「みどり牛乳」ほか、ヨーグルトやプリンなど各種乳製品を販売する「九州乳業」を子会社化し、九州を中心に西日本エリアで当社グループの展開する外食チェーンへの販売を展開

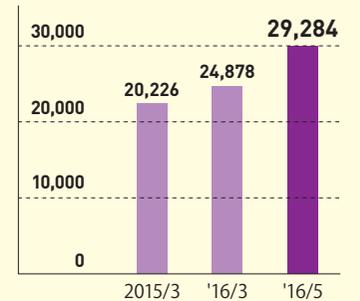
茨城乳業を子会社化

- ・OEM受託を含む幅広い乳製品製造に強みを持つ「茨城乳業」の株式を取得し生産、製造事業を強化。ヨーグルトやプリンなどの提供で当社商品ラインナップのさらなる拡大へ

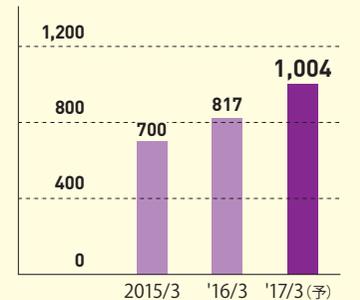
アスラポートの資本増強施策

将来的な経営資源増強のための施策として、発行済株式総数を増やしたためEPSが減少しています。しかし営業利益は増えているので、施策の成果は上がっています。

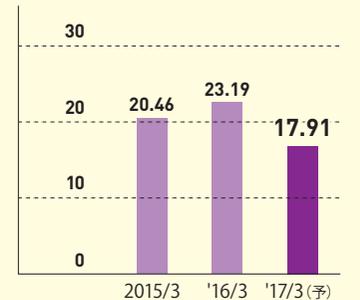
◆発行済株式総数 単位:千株



◆営業利益 単位:百万円



◆EPS 単位:円



ジャパン・フード&リカー・アライアンス(株)との 資本業務提携で海外事業を強化

JAPAN FOOD & LIQUOR ALLIANCE JFLA

ジャパン・フード&リカー・アライアンス(株)(JFLA)は、調味料や酒類の製造・販売及び輸入食品類・酒類販売を行っています。当社は2015年6月、JFLAと資本業務提携を行い、当社がもつ酒類や飲料、調味料販売、輸入食材の仕入れやプライベートブランド(PB)の開発などで協力していく体制を整えました。当社グループの乳製品加工メーカーの商品をJFLAのネットワークで販売し、当社商品の販路拡大につなげます。同時にPB商品の共同開発によって双方の付加価値向上を目指します。

生産事業の拠点となる TOMONIゆめ牧舎で六次産業化を推進



六次産業化への一環として当社子会社の弘乳舎が株式取得し、グループ企業となったTOMONIゆめ牧舎は北海道黒松内町で乳牛の牧場を運営しています。25haの放牧地と100ha以上の牧草地を所有し、生乳の出荷や仔牛の生産を事業の柱としている当社と協業することで、今後は付加価値の高い乳製品ブランドの構築ならびに販売事業の競争力強化を進めます。



乳業メーカーの九州乳業子会社化で 西日本エリアを強化

健康をつくる
みどり牛乳
九州乳業株式会社

茨城乳業、弘乳舎に続き、新たに子会社化した九州乳業は、50年以上の歴史をもち、主力ブランド「みどり牛乳」やヨーグルト、プリンなどの乳製品を製造・販売しています。当社がグループに加わることで、今後は九州を中心とする西日本エリアにおいて当社が展開する外食チェーンとの相乗効果を高めていきます。



ベルギーから人気の ベーカリーレストランが登場



当社はブランド・ポートフォリオの多様化を目指し、その一環として欧米を中心に高い評価を得ているベーカリーレストランブランド「ル・パン・コティディアン」の国内独占ストアライセンスを取得しました。「ル・パン・コティディアン」では伝統的なレシピによるパン製造や、有機栽培で作られた質の良い材料を用いたサンドイッチが特徴で、スイーツ、ワイン、雑貨なども販売します。日本にベルギーのエlegantなレストランが登場することで、外食市場に新たな需要を生み出していけると考えています。



(株)フジタコーポレーションと資本業務提携で 北海道・東北エリアに業容拡大

FUJITA
株式会社 フジタコーポレーション

当社グループは2016年3月、(株)フジタコーポレーションと業務資本提携を行いました。同社はファストフードや大阪王将などのフランチャイズ・直営店舗を運営する外食事業と物販事業を北海道・東北を中心に展開しています。この業務提携により双方のノウハウ、強みを活かし収益基盤を強化していきます。また将来的には、北海道・東北エリアにおける業態拡大と店舗展開、人材マネジメントの共有化、共同購買・販促によるコスト削減や効率化、新規事業の共同開発等を実施したいと考えています。



英国に続き米国にも流通拠点を設置、さらなるグローバル展開へ



当社グループは2016年2月、Pacific Paradise Foods, Inc (PPF) を子会社化し、北米に新たな流通・販売拠点を設置しました。PPFはカリフォルニア州ロサンジェルス市の食品加工・卸会社で、和食材ブランド「魚一」、洋食材ブランド「スターライト」を有しております。和食の生食用食材、天ぷら用エビ、洋食のココナッツシュリンプやタコなどの加工食品に強みを持ち、米国の食品流通大手に販売しています。



当社グループは2015年8月、英国のT&S Enterprises (London) Limited、S.K.Y. Enterprise UK Limited を子会社化して海外における流通事業を展開していますが、今回のPPF子会社化で当社の「食のバリューチェーン」はグローバルな広がりを一層進めることとなりました。また米国での生産・流通基盤を構築することで、当社の国内における和食ブランドを将来的に進出させていくことも視野に入れています。

老舗ラーメン「どさん子」を擁するDSKグループを子会社化



当社グループは「既存ブランドの競争力強化」、「ブランド・ポートフォリオの多様化」、「海外市場への進出」を踏まえたさらなる成長戦略のため、どさん子の持株会社であるDSKグループを子会社化しました。これにより当社グループの販売事業における店舗数は全国の「どさん子」ラーメン店242店を加え、680店舗へと拡大しています。



「どさん子」とは2015年4月に業務提携を行い、パリやロサンジェルスへの出店を通して海外進出・運営ノウハウを集積しています。また当社子会社の「とり鉄」とコラボレーションした店舗をメルボルンに開店するなど、海外市場のお客さまの需要をも取り込んでいます。同社の子会社化によって、人財リソースや物流網など双方の強みを活かした事業の拡大が見込まれます。



アスラポート・ダイニングのグローバル戦略として欧州、北米、豪州と世界の販売・流通・生産拠点に基軸を置き、今後徐々に流通網を拡げていくことで、さらに日本のおいしい食を世界に、また世界のおいしい食を国内に展開していきます。

■ 生産事業 ■ 流通事業 ■ 販売事業



New!

世界的ファッションデザイナー、ミチココシノ氏とコラボレート

Michiko Sushino

当社グループの子会社 Sushi Bar Atari-Ya Limitedでは、ロンドンを拠点に活躍する世界的ファッションデザイナーのミチココシノ氏がオーナーになってコンセプトから内装、ユニフォームまでデザインしたコラボレート店舗である寿司バー、「Michiko Sushino」を2016年7月7日にオープンしました。「コーヒーショップのように気軽に入ってさっと注文できるシンプルなSushi Bar」として、セルフサービスでありながら伝統的な握り寿司から創作寿司まで、職人による作り立てを提供します。

Sushi Bar Atari-Ya Limitedはこれからも、固定概念を覆すコンセプトで海外に斬新な寿司バーを展開していきます。



PAGE 07 経営成果と財務分析

当連結会計年度の外出食及び食品生産業界では、円高により一部輸入食材価格が低下したものの、人件費の上昇が依然として利益を圧迫するなど、引き続き楽観視できない状況が続きました。

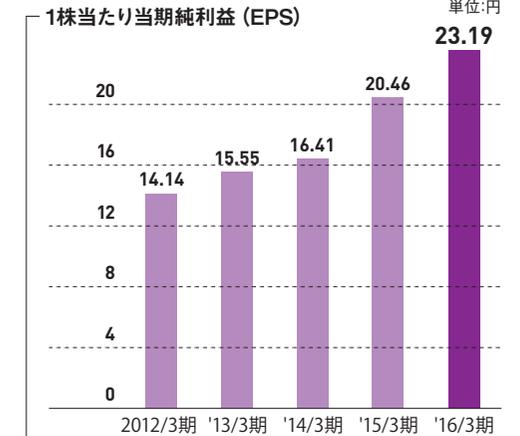
当社グループでは、引き続き既存ブランドの着実な展開を推し進めるとともに、M&Aなどにより、ブランド・ポートフォリオの拡充、流通事業の

展開、海外進出の加速、さらには生産事業の拡充などを行いました。

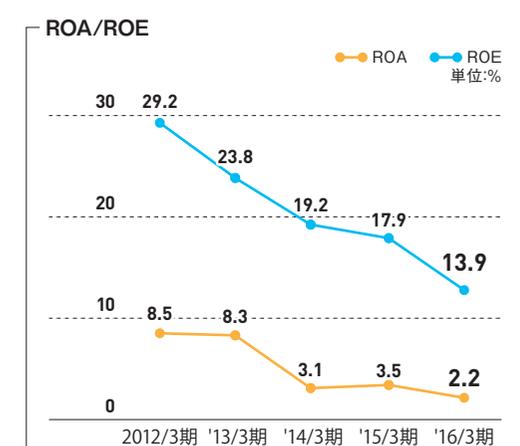
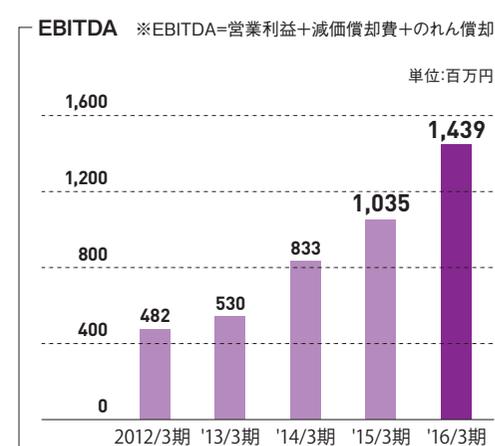
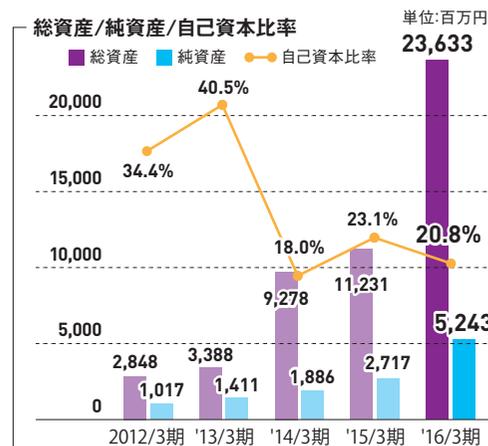
その結果、連結売上高は23,495百万円(前連結会計年度比110.4%増)、連結営業利益は817百万円(同16.7%増)、経常利益は724百万円(同16.3%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は520百万円(同33.9%増)となりました。

当連結会計年度末における総資産は23,633百万円(前連結会計年度末比12,401百万円増)、負債は18,389百万円(同9,875百万円増)となりました。純資産は、平成27年10月及び平成28年3月実行の第三者割当増資や当期純利益の計上などにより、5,243百万円(同2,525百万円増)となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは808百万円の収入となり、投資活動によるキャッシュ・フローは2,577百万円の支出となりました。財務活動によるキャッシュ・フローが3,923百万円の収入となり、これらの結果、当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、5,485百万円(同2,156百万円増)となりました。



※当社は、2012年10月1日付2013年3月期で普通株式1株につき普通株式100株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、2010年3月期(第4期)の期首に当該株式分割が行われたと仮定してEPSを算定しております。



連結貸借対照表	(千円)				
	2012/3	2013/3	2014/3	2015/3	2016/3
現金及び預金	510,800	659,597	2,650,084	3,326,845	5,507,158
受取手形及び売掛金	616,922	634,974	1,078,951	1,187,470	3,719,263
棚卸資産	34,236	71,549	450,442	463,117	1,365,685
貸倒引当金	△28,361	△53,231	△14,477	△17,213	△137,313
その他	230,884	225,431	774,307	954,434	1,686,727
流動資産	1,364,481	1,538,320	4,939,307	5,914,653	12,141,523
有形固定資産	334,507	254,755	2,139,970	2,107,131	5,655,556
無形固定資産	363,470	293,121	1,659,310	1,855,083	3,885,813
投資その他の資産	785,775	1,302,751	989,775	1,354,919	1,950,231
固定資産	1,483,754	1,850,627	4,789,055	5,317,134	11,491,601
資産合計	2,848,235	3,388,948	9,728,362	11,231,788	23,633,125
支払手形及び買掛金	393,799	391,862	649,354	813,528	2,736,312
短期借入金	153,950	394,130	608,600	52,470	2,122,453
1年以内返済予定の長期借入金	47,500	—	982,323	1,596,978	2,710,375
その他	574,438	513,908	1,032,818	1,183,272	2,382,624
流動負債	1,169,687	1,299,900	3,273,095	3,646,248	9,951,767
社債	—	70,000	122,500	193,500	60,000
新株予約権付社債	—	—	75,000	—	—
長期借入金	—	—	3,306,084	3,570,899	5,901,600
その他	660,648	607,163	1,065,191	1,103,280	2,476,105
固定負債	660,648	677,163	4,568,775	4,867,679	8,437,706
負債合計	1,830,335	1,977,063	7,841,870	8,513,927	18,389,473
株主資本	980,362	1,372,829	1,754,882	2,592,603	4,986,784
資本金	644,821	700,888	741,591	965,995	1,902,254
資本剰余金	603,118	659,185	699,888	924,292	1,861,590
利益剰余金	△266,148	14,183	314,831	703,743	1,224,367
自己株式	△1,428	△1,428	△1,428	△1,428	△1,428
その他包括利益累計額合計	△333	△477	846	3,390	△72,224
新株予約権	37,871	39,532	45,741	23,833	4,522
非支配株主持分	—	—	85,021	98,034	324,568
純資産合計	1,017,900	1,411,884	1,886,491	2,717,860	5,243,651
負債純資産合計	2,848,235	3,388,948	9,728,362	11,231,788	23,633,125

連結損益計算書及び連結包括利益計算書	(千円)				
	2012/3	2013/3	2014/3	2015/3	2016/3
売上高	7,307,004	7,320,288	9,396,404	11,167,069	23,495,338
売上原価	3,905,186	3,887,496	5,597,148	7,150,686	16,797,926
売上総利益	3,401,818	3,432,791	3,799,256	4,016,382	6,697,411
販売費及び一般管理費	3,115,621	3,076,154	3,236,574	3,315,770	5,880,085
営業利益	286,197	356,637	562,682	700,612	817,325
営業外収益	13,952	42,412	34,540	41,078	101,073
営業外費用	30,019	38,592	136,265	119,051	193,995
経常利益	270,129	360,457	460,957	622,639	724,403
特別利益	8,736	6,219	28,364	121,354	251,535
特別損失	29,304	22,620	54,104	66,595	72,816
税金等調整前当期純利益	249,561	344,055	435,217	677,397	903,122
法人税等	8,488	63,723	128,152	275,472	372,866
非支配株主に帰属する当期純利益	—	—	6,417	13,012	9,632
親会社株主に帰属する当期純利益	241,073	280,332	300,648	388,912	520,624
非支配株主損益調整前当期純利益	241,073	280,332	307,065	401,924	530,256
その他の包括利益	△270	△143	1,323	2,544	△75,614
包括利益	240,803	280,189	308,388	404,468	454,641
親会社株主に係る包括利益	240,803	280,189	301,971	391,456	444,927
非支配株主に係る包括利益	—	—	6,417	13,012	9,714

連結キャッシュ・フロー計算書	(千円)				
	2012/3	2013/3	2014/3	2015/3	2016/3
営業活動によるキャッシュ・フロー	398,943	502,088	1,168,899	796,330	808,248
投資活動によるキャッシュ・フロー	△21,688	△585,696	△2,445,262	△883,627	△2,577,376
財務活動によるキャッシュ・フロー	△103,500	232,405	3,242,653	788,402	3,923,561
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—	4,194	△2,395	1,923
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	273,753	148,797	1,970,486	698,710	2,156,356
現金及び現金同等物の期首残高	237,046	510,800	659,597	2,630,084	3,328,794
現金及び現金同等物の期末残高	510,800	659,597	2,630,084	3,328,794	5,485,150

主要な経営指標	(千円)				
	2012/3	2013/3	2014/3	2015/3	2016/3
店舗数	351	345	347	428	434
EBITDA(百万円)	482	530	833	1,055	1,439
有利子負債額(百万円)	317	494	5,169	5,594	10,794
D/E レシオ(倍)	0.3	0.4	2.9	2.1	2.1
自己資本比率(%)	34.4	40.5	18.0	23.1	20.8
ROA(%)	8.5	8.3	3.1	3.5	2.2
ROE(%)	29.2	23.8	19.2	17.9	13.9
EPS(円)	14.14	15.55	16.41	20.46	23.19
BPS(円)	56.14	75.21	94.64	128.36	197.56

※当社は、2012年10月1日付(第7期)で普通株式1株につき普通株式100株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、2010年3月期(第4期)の期首に当該株式分割が行われたと仮定してEPS、BPSを算定しております。



沿革

1995年9月

飲食ビジネスの店舗運営ノウハウの蓄積を目的として「株式会社ベンチャー・リンク」の子会社として「株式会社プライム・リンク」を設立



1999年12月

「株式会社プライム・リンク」が、炭火焼肉酒家「牛角」のエリアフランチャイズ本部事業の展開を開始

2001年11月

「株式会社プライム・リンク」が、大阪証券取引所ナスダック・ジャパン市場(現:東京証券取引所JASDAQ)に株式を上場

2007年1月

「株式会社プライム・リンク」からの株式移転により「株式会社アスラポート・ダイニング」を設立
「株式会社アスラポート・ダイニング」が大坂証券取引所ヘラクレス・スタンダード市場(現:東京証券取引所JASDAQ)に株式を上場し「株式会社プライム・リンク」が「株式会社アスラポート・ダイニング」の連結子会社となる

2007年8月

「株式会社とり鉄」が連結子会社となる



2010年2月

「株式会社ゲンジフーズ」の全保有株式を譲渡

2000年9月

「株式会社プライム・リンク」が、「とりでん」のエリアフランチャイズ本部事業の展開を開始



2013年9月

「株式会社弘乳舎」が連結子会社となる



2013年12月

「株式会社フードスタンドインターナショナル」が事業譲受により、洋菓子製造販売「GOKOKU(ゴコク)」の運営を開始



2014年 4月

「アスラポート・フランス」設立

2014年 9月

「レゾナンスダイニング株式会社」が連結子会社となる

2016年3月

「Pacific Paradise Foods, Inc.」(米国)を連結子会社化
「株式会社DSKグループ」を連結子会社化



2012年

2012年1月

「株式会社フードスタンドインターナショナル」設立



2013年

2014年

2015年

2015年 4月

「茨城乳業株式会社」が連結子会社となる



「Taco Bell社」とフランチャイズ契約を締結し「Taco Bell」日本1号店を渋谷に開店

2015年 5月

「T&S Enterprises (London) Limited, S.K.Y. Enterprise UK Limited 及び Sushi Bar Atari-Ya Limited」の英国法人3社が連結子会社となる



2015年8月

「株式会社TOMONIゆめ牧舎」を連結子会社化



2015年10月

「九州乳業株式会社」を連結子会社化



2015年12月

「ル・パン・コティディアン」の国内独占ストアライセンスを取得



商号	株式会社アスラポート・ダイニング Asrapport Dining Co., Ltd. 
事業設立	2007年1月12日
資本金	2,848百万円
上場取引所	株式会社東京証券取引所 JASDAQ
事業所	東京都品川区西五反田一丁目3番8号 五反田御幸ビル3階
事業内容	外食フランチャイズ本部及び店舗の運営、 食品の製造・販売及び流通
HP	http://www.asrapport-dining.com/

代表取締役社長 中村 敏夫

代表取締役会長 檜垣 周作

取締役 小林 剛

取締役 森下 将典

取締役 齊藤 隆光

取締役 宇野 友三郎 [社外取締役]

常勤監査役 大野 千幸 [社外監査役]

監査役 森本 晃一

監査役 阿部 夏朗 [社外監査役]

監査役 浅川 威 [社外監査役]

コーポレート・ガバナンス

① 企業統治の体制の概要

当社は、持株会社として当社グループの中心に位置し、グループ全体の戦略決定、経営管理及び資本政策の決定等を行う機能を有します。これに基づき各事業会社が業務を執行するという体制をとることで、経営の決定及び管理機能と執行機能を分離し、経営責任の明確化と業務執行の迅速化、意思決定の透明性の向上及びコンプライアンスの強化を図っております。

また、当社は監査役設置会社としており、取締役会と監査役会により経営方針の決定、業務執行の管理監督及び監査を行っております。

取締役会は、取締役6名で構成され、うち1名は社外取締役が在任しております。原則月1回開催し、経営方針等の意思決定およびグループ会社の業務執行の管理を行っております。また、取締役の任期は1年としております。監査役会は、4名の監査役で構成され、うち3名は社外監査役が在任しております。監査役は毎月1回の取締役会に出席し取締役会の業務執行に対する監督を行うほか、毎月1回監査役会を開催し、監査の重要事項に関わる協議を行っております。

今般、東京証券取引所が制定したコーポレートガバナンス・コードについては、その各基本原則を、すべて実施しております。

② 社外取締役及び社外監査役

当社は社外取締役1名、社外監査役3名を選任しております。当社の社外取締役及び社外監査役は、当社とは一切の人的関係、資金的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

社外取締役の宇野友三郎氏については、食品業界において経営に携わってきた豊富な経験と幅広い知識から、経営に関する有効な助言を期待し選任しております。社外監査役の大野千幸氏については、金融及びコーポレートファイナンスに関する知識と企業活動に関する豊富な見識からの経営全般の監視と有効な助言を期待し選任しております。なお、大野千幸氏は親会社である阪神酒販株式会社の監査役を兼任しております。

社外監査役の阿部夏朗氏については、企業経営者として豊富な経験から経営全般の監視と有効な助言を期待し選任しております。同じく社外監査役の浅川威氏は、シカゴ大学経営大学院修士課程を修了した企業経営者であり、企業経営者及びMBA資格保有者としての豊富な経験、幅広い知見を有しており、経営全般の監視と有効な助言を期待し選任しております。

なお、社外取締役の宇野友三郎氏、阿部夏朗氏及び浅川威氏については、独立役員として東京証券取引所に届け出ております。

当社においては、社外取締役及び社外監査役を選任するための提出会社からの独立性に関する基準または方針はありませんが、東京証券取引所の独立役員の独立性に関する判断基準等を参考に、一般株主と利益相反を生じる恐れがないことを基本的な考え方として選任しております。

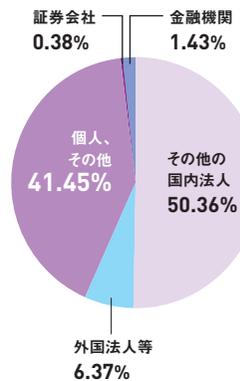
株式情報

(2016年3月31日現在)

発行可能株式総数	49,500,000株
発行済株式総数	24,878,839株
株主数	12,627名
自己株式	2,400株
発行済株式総数に対する所有株式数の割合	0.01%

所有者別株式分布状況

(2016年3月31日現在)



大株主の状況

(2016年3月31日現在)

氏名又は名称	所有株式数(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
HSIグローバル株式会社	10,643,467	42.78
東洋商事株式会社	1,169,724	4.70
LGT BANK LTD JAPAN RESIDENT TOKYO (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	913,242	3.67
川上 統一	412,160	1.66
オリエンビルデブローメント6号株式会社	269,426	1.08
THE BANK OF NEW YORK -JASDECNON-TREATY ACCOUNT (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	240,975	0.97
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL (常任代理人 ゴールドマン・サックス証券株式会社)	200,300	0.81
ワイエスフード株式会社	199,300	0.80
BANK LOMBARD ODIER AND CO LTD GENEVA (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	194,000	0.78
林 浩喜	165,000	0.66
合計	14,407,594	57.91

株価 / 出来高

